

## 雨水貯留浸透機能を備えた植樹帯を整備し、冠水被害を軽減する

## 【対策】46 グリーンインフラを活用した防災・減災対策

対策概要: グリーンインフラの社会実装を加速化させるため、産学官の多様な主体が参画する「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム(R2.3創設)」において、防災・減災等に資するグリーンインフラの社会的な普及、技術に関する調査・研究等を推進するとともに、雨水の貯留浸透機能等の高いグリーンインフラの創出・保全等災害の低減に資する取組を支援する。

府省庁名: 国土交通省

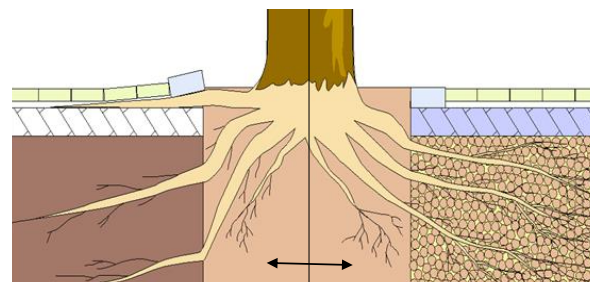
## 【事例】グリーンインフラを活用した持続可能なまちづくり(防災・安全)

- 実施主体: 大阪府
- 実施場所: 大阪府八尾市
- 事業概要: 寝屋川流域内の特定都市河川流域に指定されている大阪中央環状線の区間において、浸水対策が必要な状況であったため、雨水貯留浸透機能を有する植樹帯等の整備を実施している。

事業期間: 令和4年度～令和6年度

- 事業費: 0.3億円(令和4年度)  
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)0.2億円)

- 効果: 雨水貯留浸透機能を有する植樹帯等を整備することで、約370,000ℓの雨水が貯留されると試算されており、豪雨時の雨水流出の抑制に寄与し冠水被害を軽減することが期待される。



【整備前】

空隙の少ない土壌は雨水貯留能力が低く、根系も生育できず、倒木、根上がり  
の要因となる。

【整備後】

土壌の空隙を確保し、雨水貯留による災害防止に寄与。  
また、根系の発育を促進させ健全な樹木育成に寄与。



対象区間



整備前 (令和3年5月冠水)



整備後